

「教育改善と就職支援に資する調査報告：課題対応の取り組みと今後の展望」

1. 教学 IR による点検・評価のサイクル

(1) アセスメント・プランに基づいた点検・評価の実施

本学では、学生にディプロマ・ポリシーをより確実に達成させるカリキュラムをマネジメントするために、①本学で定める3つのポリシーが適切であるかどうか、②本学の教育課程が3つのポリシーに基づき適切に機能しているかを、3つのレベル（機関レベル・学部レベル・授業レベル）で、多面的・総合的に、点検・評価するための具体的実施方法を定めることを目的とし、アセスメント・プランを策定している。

（図表 1）アセスメント対象及びその指標

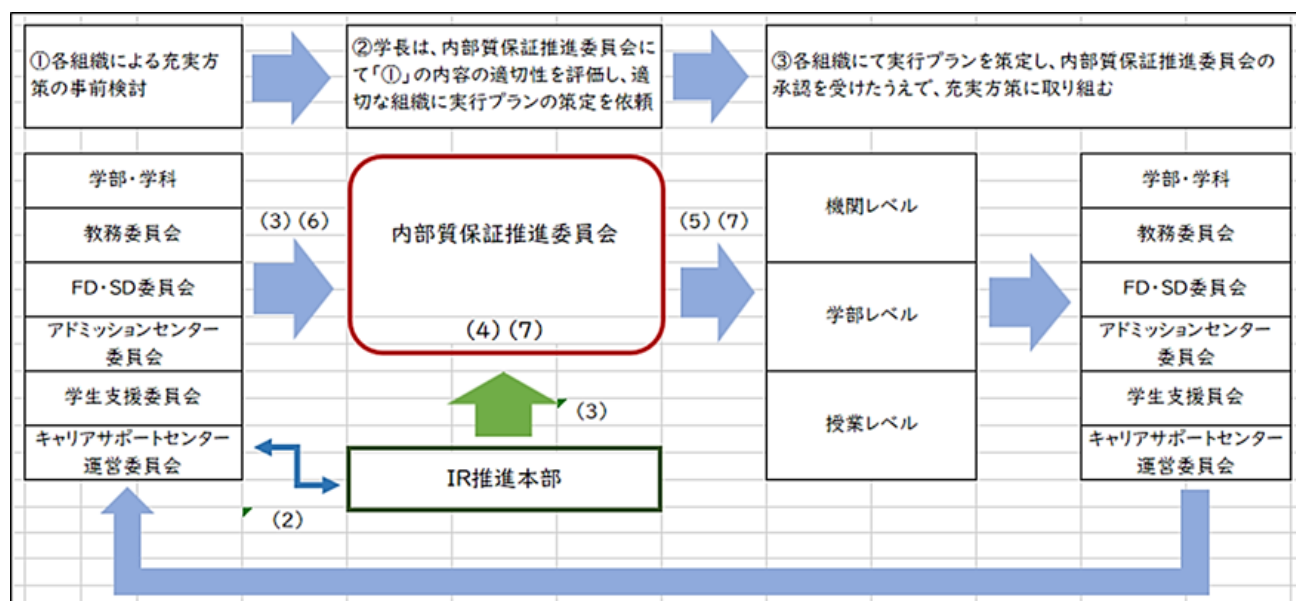
アセスメント 対象	アドミッション・ ポリシーで示した資質能 力の適切性	カリキュラム・ポリシーに基づき設計されたカリキュラムの適切性			ディプロマ・ポリシー で示した資質能力の適 切性	3つのポリシーの 整合性
		設計の適切性	実行の適切性	学修成果		
指 標	学 部 レ ベル	①選抜機能評価 （各種入学試験とその 後の GPA/単位修得状 況/留年・退学状況との 関係） ②入学時 基礎学カテスト	③シラバスの第三者 チェック(DP と各科目の 内容/順序/ レベルの整 合性)	⑤授業評価アンケート	⑥ジェネリックスキ (PROG) ⑦専門性 ⑧学修成果等 アンケート ⑨成績評価(GPA)	⑪卒業後調査 (卒業生アンケート)
			④出欠状況調査・学長によるヒアリング調査		⑩進路先調査(企業アンケート)	⑫3つのポリシーの整合 性点検(卒業率/就職率 / 進学率/留年率/退学 率)
			⑫卒業生調査(卒業時学生アンケート)			
			⑬地元産業界インタビュー調査(浦安市企業アンケート)			
	授 業 レ ベル	③シラバスの 第三者 チェック(DP と到達 目標[ルーリツク]/ 授業 手法/ 評価方法の整合 性)	⑤授業評価アンケート	⑧学修成果等 アンケート ⑨成績評価		

(2) 「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」を用いての点検・評価

アセスメント・プランに定めた各ポリシーに基づいた適切性を「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」を用いて、定期的に点検・評価を実施している。（図表 2）

また、「3つのポリシーの整合性点検」においては、卒業率／就職率／進学率／留年率／退学率を評価項目とし、各指標を学年学科別の半期ごとの推移データとして比較を行い、継続的に向上が図れるよう実施責任者が対策案を検討し、機関レベルへの報告、その後実施責任者が充実方策を検討、実施するサイクルを整えている。

(図表 2) アセスメント対象及びその指標



2. 点検・評価によりアンケートの調査方法及び分析の問題点を抽出

2012 年度からキャリアサポートセンターにて実施してきた企業・卒業生に対するアンケート調査について、アセスメント・プランに基づき、IR 推進本部にて点検・評価を実施した結果以下の課題が挙げられた。

- (1) 回答を学生へのキャリア教育の改善及び就職指導により活用できる設問内容にすべきである
- (2) 学修成果としてのチェック項目である「ジェネリックスキル」と連動すべきである
- (3) 他大学と比較ができるものが望ましい
- (4) 回収率を高めていく必要がある

3. 見込まれる効果

今回のアンケート内容、実施方法及び分析・評価を変更することで、以下の効果が見込まれ、教育の質保証のための教育改善や学生への就職支援に活用する。

- (1) 在学生の PROG で利用している「ジェネリックスキル」の概念を当該アンケート調査に適用することで、異なるステークホルダーである在学生、卒業生、企業の調査結果を共通の概念で考察することができる
- (2) 卒業生調査において、他大学と共通の質問を利用することで比較が可能
- (3) 調査結果については、キャリアサポートセンターだけでなく、IR、教学関係、入試広報等多方面で活用することができる

4. 調査内容

(1) 企業調査

	変更前（2023 年度）	変更後（2024 年度）
調査対象	①2021、2022 年度採用実績企業	①2022、2023 年度採用実績企業
	②浦安に本社がある企業	②浦安に本社がある企業
	—	③業界研究セミナー参加企業
対象社数	817 社	1184 社
調査方法	郵便はがき又はメールによる回答依頼、 WEB システム上での回答収集	郵便はがき又はメールによる回答依頼、 WEB システム上での回答収集
調査内容	・ 通常の就職に関する設問	・ PROG で利用している「ジェネリックスキル」の概念を当該アンケート調査に適応
調査分析	・ 大学独自にて	・ 株式会社リアセック
回収率	①+②：25.2%（回答 206 社／817 社）	①+②：16.2%（回答 166 社／1026 社）
	—	③：70.3%（回答 111 社／158 社）

(2) 卒業生調査

	変更前（2023 年度）	変更後（2024 年度）
調査対象	2019 年度卒業生	2020 年度、2018 年度、2016 年度卒業生
対象社数	433 名	1397 名
調査方法	郵便はがき又はメールによる回答依頼、 WEB システム上での回答収集	郵便はがき又はメールによる回答依頼、 WEB システム上での回答収集
調査内容	・ 通常の就職に関する設問	・ PROG で利用している「ジェネリックスキル」の概念を当該アンケート調査に適応
調査分析	・ 大学独自にて	・ 株式会社リアセック
回収率	9.0%（39 名／433 名）	5.01%（70 名／1397 名）

(3) 情報共有

今回の調査内容については、キャリアサポート運営委員会を経て、浦安キャンパス内部質保証推進委員会にて報告され、キャリアサポート運営委員から各学部学科にて共有。

また、姉妹校である朝日大学との IR 提言会においても本学の取り組みとして紹介し、助言等を参考とし、次年度も実施する予定である。

明海大学 企業調査・卒業生調査結果サマリー（2024 年度）

■ はじめに

今回の両調査は在学生に実施中の PROG でも用いられている「ジェネリックスキル」の観点を取り込みステークホルダーである卒業生、企業・団体へ調査を実施した。異なるステークホルダー（在学生、卒業生、企業・団体）を見る際に、共通の観点の一つとして「ジェネリックスキル」にそろえることで今後の調査結果の活用も見据えている。

なお、「ジェネリックスキル」の定義は「どのような職種、業種にも関わらず社会で発揮が求められる力」としており、DP 要素や経済産業省の社会人基礎力、文科省の学士力、OECD のキーコンピテンシー等と親和性の高い要素で構成されている。

卒業生調査の設問フォーマットについては、リアセックキャリア総合研究所監修の『PROG 白書 2021』で用いられたものを活用。協力を得られた 13 大学の卒業生で、在学中に PROG を受検したことがある全国約 13,000 人にアンケートを依頼し、回答を得た 1,548 人（回収率 13%）の調査で、参考程度ではあるが、他大学との比較ができる。

（サマリーの中のグラフなどはリアセック社の作成した表を用いており、貴学、という表現となっている）

■ 調査のベースとなる項目(企業・卒業生調査共通)

コンピテンシー	対人基礎力	親和力	1. 他者との豊かな関係を築く能力
		協働力	2. 目標に向けて協力的に仕事を進める能力
		統率力	3. 場を読み、組織を動かす能力
	対自己基礎力	感情制御力	4. ストレスのかかる場面でも、気持ちの揺れを制御する能力
		自信創出力	5. 前向きな考え方、やる気を維持する能力
		行動持続力	6. 主体的に動き、よい行動を習慣づける能力
	対課題基礎力	課題発見力	7. 様々な角度から情報を分析し、課題の原因を明らかにする能力
		計画立案力	8. 課題解決のための適切な計画を立てる能力
		実践力	9. 目標達成に向け、実践行動する能力
大学での学修		専門知識	10. 大学の専門科目で学んだ知識・技能
		一般教養	11. 大学の教養科目で学んだ知識・技能
		外国語能力	12. 外国語を使う能力
		データサイエンス能力	13. 数理的思考力とデータ分析・活用能力（数理・データサイエンス、情報科学など）
リテラシー		情報収集力	14. 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査・整理する能力
		情報分析力	15. 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握する能力
		課題発見力	16. 現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定する能力
		構想力	17. さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、具体化する能力

「社会で求められる能力要素(ジェネリックスキル)」を使用。特徴としては、

- ・すでに産業界からのニーズを検証済である
 - ・ダブリ・重なりがなく、体系的に纏めている
 - ・独自のライブラリーとして詳細な要素の内容／記述化されたレベル内容を構築済。
- 項目は在学生アセスメント PROG(※)がベース。

※PROG は、リアセックが河合塾と共同開発したアセスメントツール。大学生のジェネリックスキル（≒汎用的スキル、社会人基礎力、学士力）の測定・育成を主な目的に開発され、キャリア教育・キャリア育成支援、教学全般の改革に活用されている。PROG では「社会人（職業人）に求められる」ジェネリックスキルを測定しているため、企業が人材育成などの施策を考える上でも有用なツールとなっている。

I. 企業調査結果サマリー

1. 調査概要

■ 学内業界研究セミナー参加企業

調査方法：インターネットによるアンケート調査

調査期間：2024 年 12 月 13 日～2025 年 1 月 31 日

回収率：70.3%(111/158)

卒業生採用実績企業 浦安市内企業

インターネットによるアンケート調査

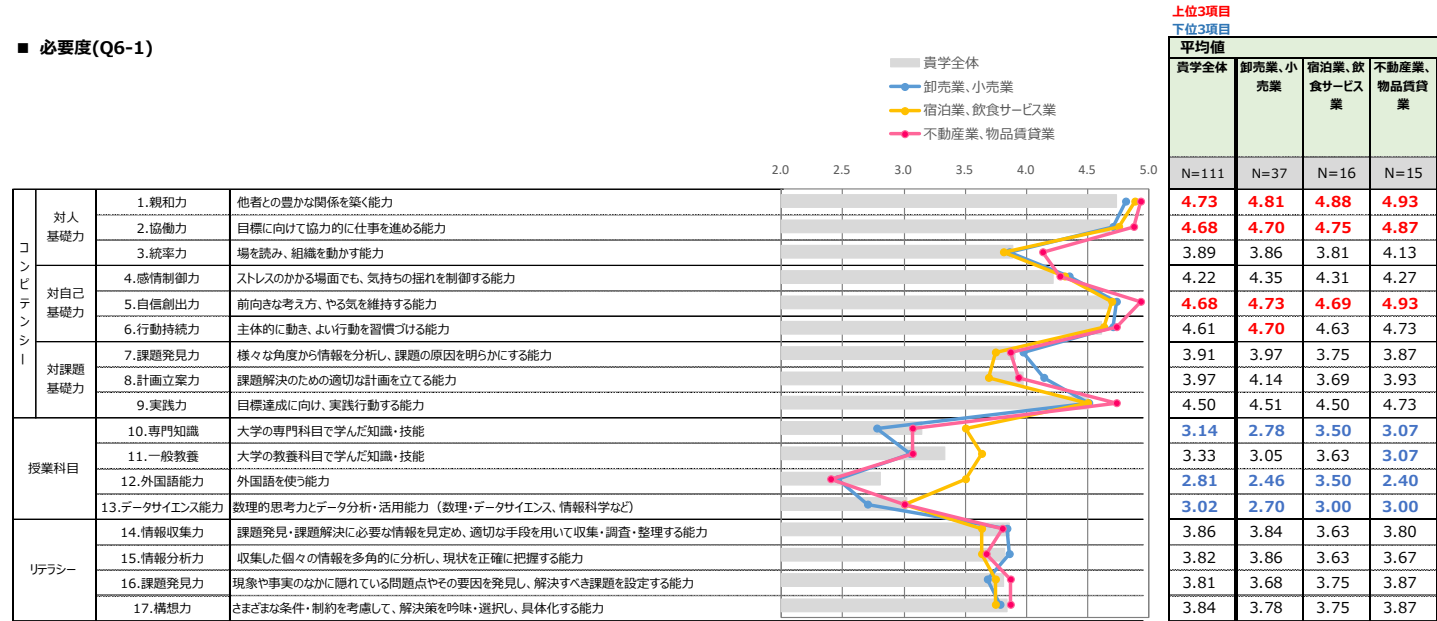
2024 年 12 月 20 日～2025 年 1 月 31 日

16.2% (166/1026)

2. 主な調査結果 (学内業界研究セミナー参加企業の分析)

■ 企業が求める能力 (必要度)

■ 必要度(Q6-1)



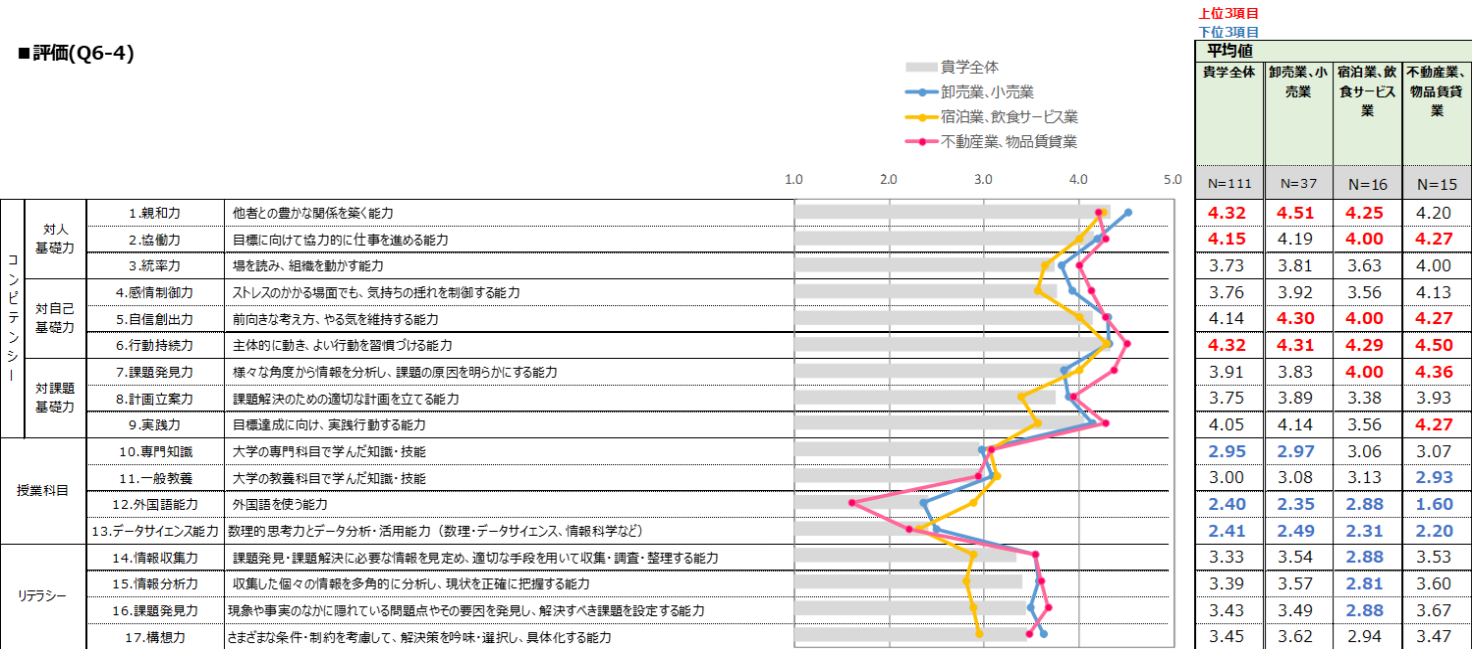
高い「1.親和力」「2.協働力」「5.自信創出力」「6.行動持続力」「9.実践力」

低い「10.専門知識」「12.外国語能力」「13.データサイエンス能力」

・能力要素の中で必要度が高いとされている項目は「対人基礎力」や「対自己基礎力」等のコンピテンシー領域、次にリテラシー領域である。

■ 卒業生に対する評価

■ 評価(Q6-4)



高い「1.親和力」「2.協働力」「6.行動持続力」「5.自信創出力」「9.実践力」

低い「10.専門知識」「12.外国語能力」「13.データサイエンス能力」

・能力要素の中で必要度も高く評価もされている項目は「対人基礎力」や「対自己基礎力」等のコンピテンシー領域である。次にリテラシー領域の評価が高い。

◆ポートフォリオ分析

※ポートフォリオの基本情報

各基礎力について、「必要度」を縦軸、「卒業生の評価」を横軸に設定して座標軸の図を作り、その中に平均点でプロットしてポートフォリオ分析を行った。各座標の交点は必要度、卒業生の評価それぞれ全項目の平均値としている。

■必要度：「職場(社会)で必要とされている度合い」

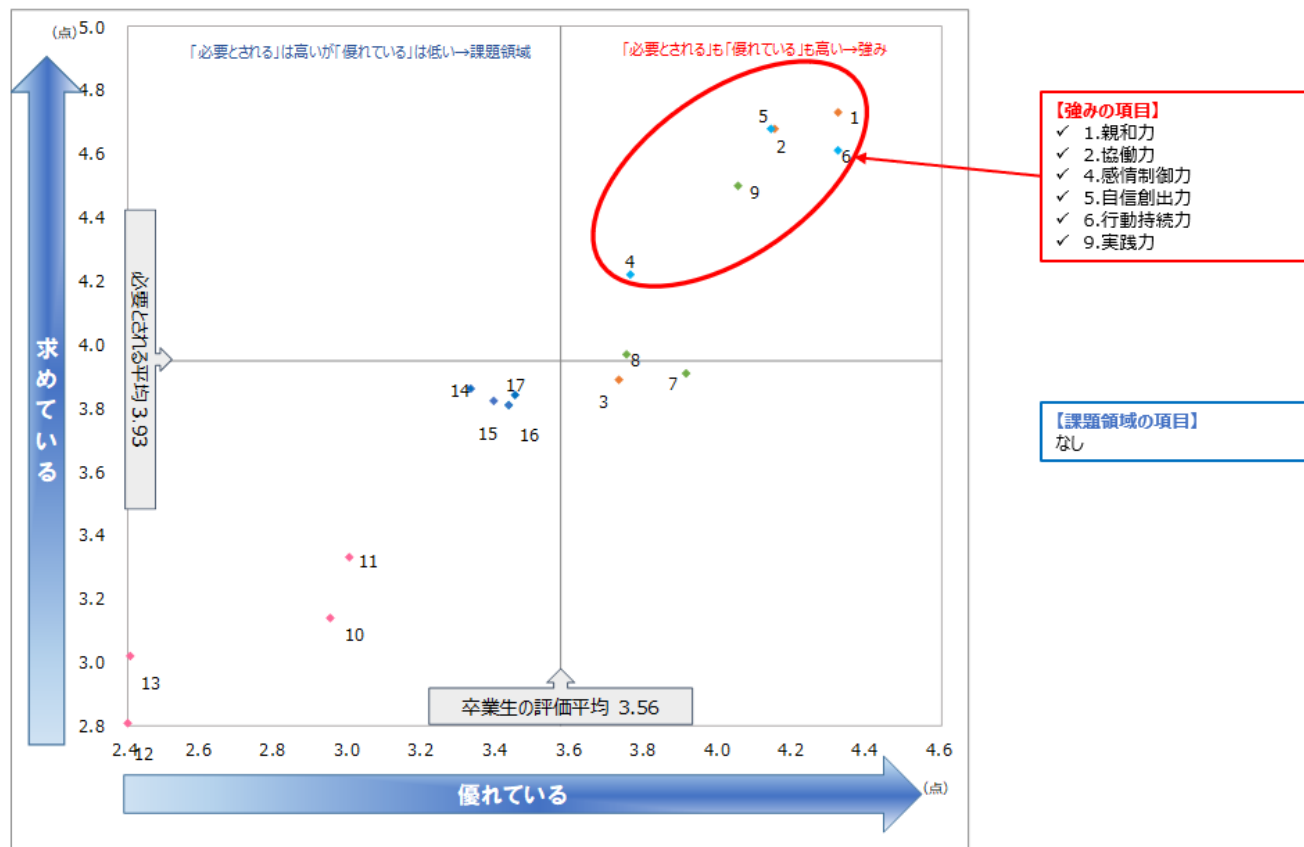
求めている：5 点、ある程度求めている：4 点、どちらともいえない：3 点、あまり求めていない：2 点、求めていない：1 点として加重平均値を算出。
(無回答は除く)

■卒業生の評価：「本学の卒業生(院修了者を含む)に対する印象」

優れている：5 点、やや優れている：4 点、どちらともいえない：3 点、やや物足りなさを感じる：2 点、物足りなさを感じる：1 点として加重平均値を算出。(無回答は除く)

・強み（必要度が高く、卒業生の評価が高い）：親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、実践力

■貴学全体（N=111）



必要とされているところは評価されている。（特に親和力）

Ⅱ. 卒業生調査結果サマリー（2024 年度）

1. 調査概要

調査目的：卒業生を対象に、本学における社会人生活に対する満足度、大学推奨度及び在学中に身につけた能力等についての実態把握と分析を行い、教学改善に向けた検討材料とする。

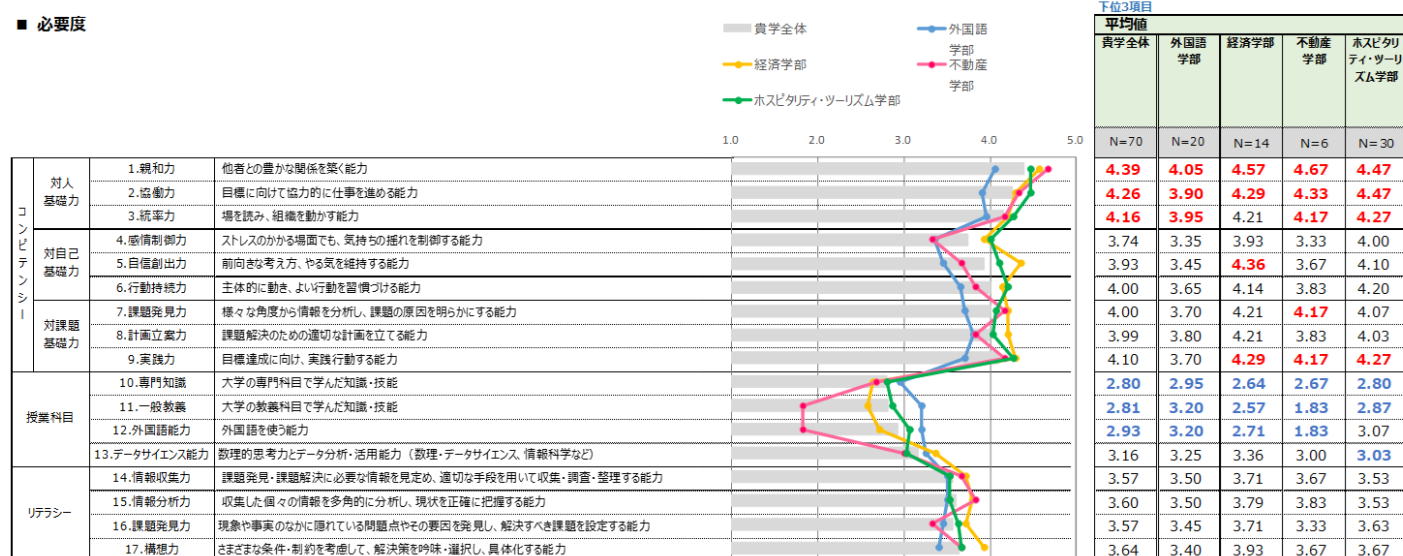
調査対象：明海大学卒業生（2020 年度卒、2018 年度卒、2016 年度卒）

回収率：5.01%（70/1397） 課題：卒業生調査の回収率は、5.01%と他大学平均（13%）と比べても大幅に低い。

2. 主な調査結果

■ 社会で必要な能力（必要度）

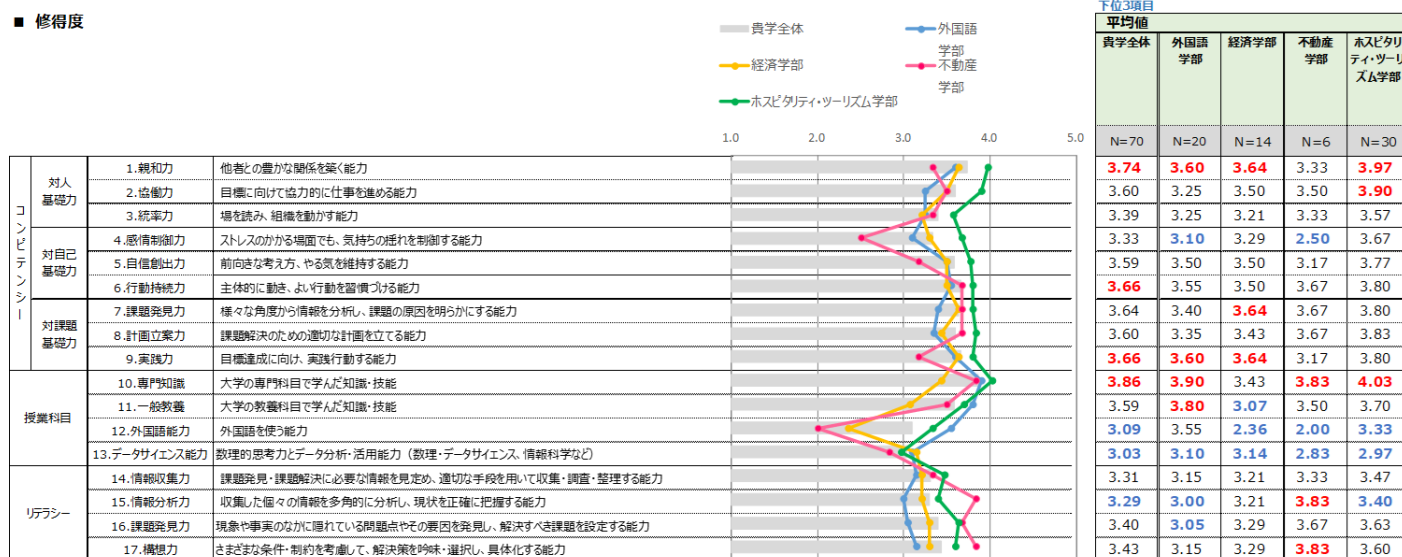
■ 必要度



高い：「1.親和力」「2.協働力」「3.統率力」「9.実践力」（企業と少し異なる） 低い：「10.専門知識」「11.一般教養」「12.外国語能力」

■ 大学で身につけた能力（修得度）

■ 修得度



高い：「1.親和力」「6.行動持続力」「9.実践力」「10.専門知識」 低い：「12.外国語能力」「13.データサイエンス能力」「15.情報分析力」

◆ポートフォリオ分析

※ポートフォリオの基本情報

各基礎力について、「必要度」を縦軸、「修得度」を横軸に設定して座標軸の図を作り、

その中に平均点でプロットしてポートフォリオ分析を行った。各座標の交点は必要度、修得度それぞれ全項目の平均値としている。

■必要度：「職場(社会)で必要とされている度合い」

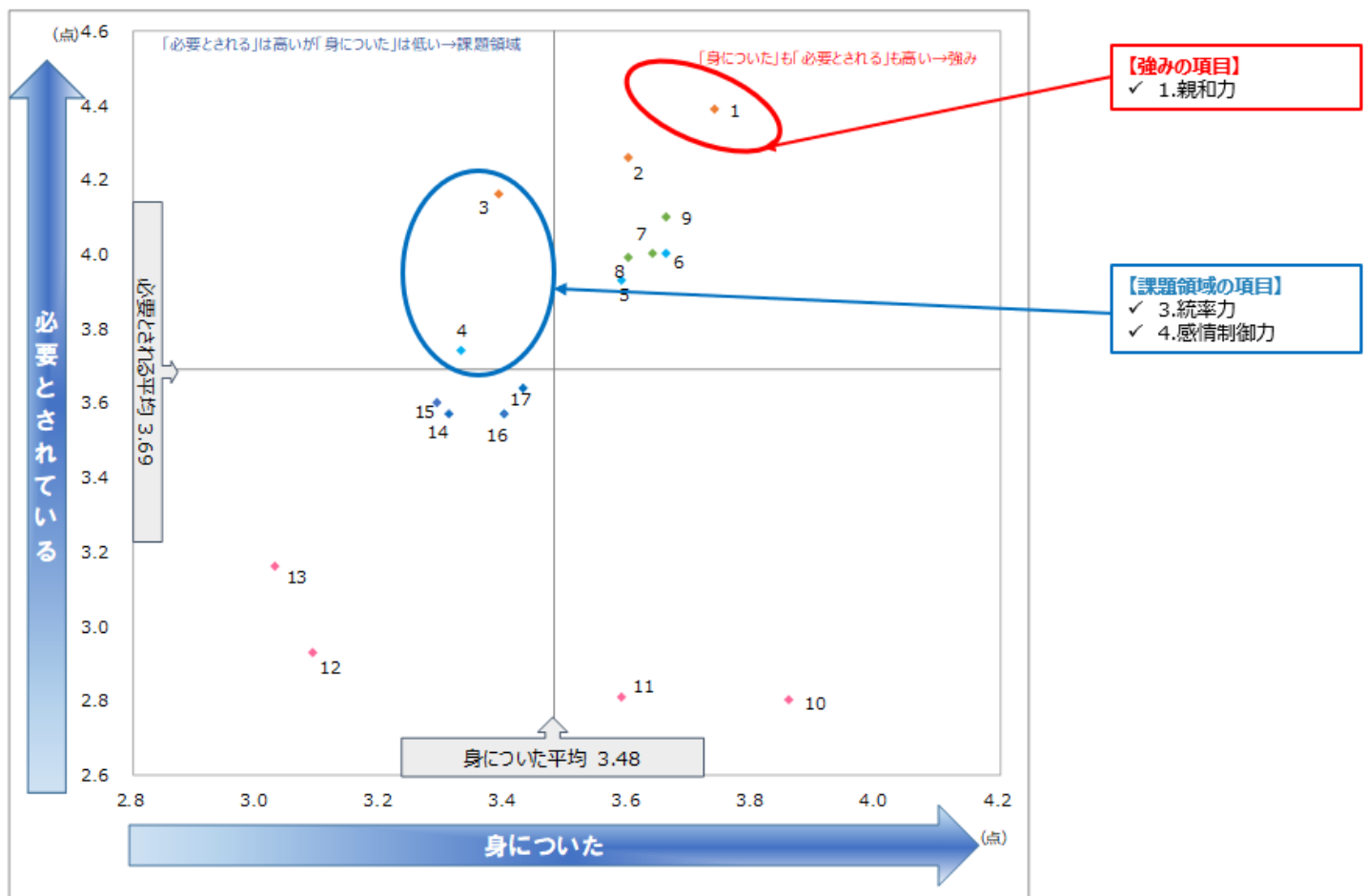
絶対に必要：5点、とても必要：4点、必要：3点、少しは必要：2点、あまり必要ではない：1点として加重平均値を算出。（無回答は除く）

■修得度：「学生時代に身についた度合い」

かなり身に付いた：5点、やや身に付いた：4点、どちらともいえない：3点、あまり身に付かなかった：2点、身に付かなかった：1点として加重平均値を算出。（無回答は除く）

- **強み（必要度が高い、修得度も高い）**：親和力（対人基礎力）
- **課題（必要度が高い、修得度が低い）**：統率力（対人基礎力）、感情制御力（対自己基礎力）

■貴学全体（N=70）



- ・「統率力」は必要度、評価ともに、「感情制御力」は評価が、企業と異なっている

3. 相関分析（参考）

■ 能力の修得度×大学時代の学修経験や成長実感の相関を分析（他大学でも同様の傾向とのこと）

相関係数

【全体】N=70（ただし各設問無回答は除く）

** 相関係数は1%水準で有意
* 相関係数は5%水準で有意

0.2以上
0.3未満
0.3以上
0.35未満
0.35以上

				Q6. 大学時代の学修経験や成長実感							Q16. 仕事の満足度とキャリア意識					
				Q6_1. 授業中に 自分から 発言した	Q6_2. 授業につ いていけ なかつた (わか らなかつ た)	Q6_3. 授業の内 容につい て他の学 生と議論 した	Q6_4. 自主的な 勉強会や 研究会に 参加した	Q6_5. 教員に親 近感を感 じた	Q6_6. 大学の教 員に将来 のキャリア の相談を した	Q6_7. 在学中を 通じて自 分は成長 できた と実感で きる	Q16_1. 仕事に必 要なスキ ルを、職 場外で自 主的に学 ぶ	Q16_2. 現在の職 場の仕事 を通じた 成長実 感	Q16_3. 現在の仕 事には意 欲的に取 組むこと ができる	Q16_4. これからの キャリアや 人生を自 分で切り 開いてい ける	Q16_5. 現在の職 場で評価 されている	Q16_6. 現在の職 場での仕 事に対する 満足度
Q7-2. 大学時代の学修によって身に付いた(修得度)																
コンピテンシー	対人基礎力	1.親和力	7_2_1. 他者との豊かな関係を築く能力	0.33**	0.30*	0.55**	0.19	0.25*	0.38**	0.62**	-0.06	0.10	-0.04	-0.03	0.04	0.04
		2.協働力	7_2_2. 目標に向けて協力的に仕事を進める能力	0.43**	0.04	0.46**	0.45**	0.27*	0.31**	0.50**	0.13	0.00	0.24	0.13	0.10	0.05
		3.統率力	7_2_3. 場を読み、組織を動かす能力	0.37**	0.00	0.33**	0.50**	0.25*	0.27*	0.56**	0.06	0.07	0.27*	0.10	-0.04	0.06
	対自己基礎力	4.感情制御力	7_2_4. ストレスのかかる場面でも、気持ちの揺れを制御する能力	0.37**	0.09	0.31**	0.48**	0.12	0.17	0.39**	-0.02	0.06	0.20	0.08	0.02	0.10
		5.自信創出力	7_2_5. 前向きな考え方、やる気を維持する能力	0.49**	-0.01	0.45**	0.39**	0.34**	0.37**	0.63**	0.08	0.15	0.20	0.22	0.04	0.20
		6.行動持続力	7_2_6. 主体的に動き、よい行動を習慣づける能力	0.58**	-0.04	0.45**	0.44**	0.44**	0.40**	0.72**	0.10	0.18	0.07	0.21	-0.01	0.12
	対課題基礎力	7.課題発見力	7_2_7. 様々な角度から情報を分析し、課題の原因を明らかにする能力	0.44**	-0.05	0.31**	0.38**	0.22	0.17	0.57**	0.18	-0.01	-0.01	0.10	-0.07	-0.04
		8.計画立案力	7_2_8. 課題解決のための適切な計画を立てる能力	0.48**	-0.03	0.29*	0.40**	0.23	0.24*	0.53**	0.12	-0.03	-0.01	0.11	0.06	-0.04
		9.実践力	7_2_9. 目標達成に向け、実践行動する能力	0.55**	-0.12	0.33**	0.36**	0.22	0.20	0.57**	0.04	0.06	0.09	0.12	0.12	0.04
授業科目	10.専門知識		7_2_10. 大学の専門科目で学んだ知識・技能	0.40**	-0.18	0.41**	0.43**	0.39**	0.15	0.58**	-0.07	-0.03	0.04	0.19	0.02	0.09
	11.一般教養		7_2_11. 大学の教養科目で学んだ知識・技能	0.46**	-0.18	0.47**	0.36**	0.34**	0.23	0.61**	-0.17	0.10	0.05	0.13	-0.02	0.14
	12.外国語能力		7_2_12. 外国語を使う能力	0.46**	-0.06	0.48**	0.30*	0.26*	0.31**	0.41**	-0.11	0.03	0.10	0.12	0.23	0.11
	13.データサイエンス能力		7_2_13. 数理的思考力とデータ分析・活用能力（数理・データサイエンス、情報科学など）	0.44**	-0.18	0.38**	0.21	0.18	0.18	0.47**	0.16	0.08	0.13	0.27*	0.18	0.17
リテラシー	14.情報収集力		7_2_14. 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査・整理する能力	0.50**	-0.16	0.37**	0.45**	0.25*	0.29*	0.57**	0.17	0.12	0.27*	0.36**	0.24	0.24
	15.情報分析力		7_2_15. 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握する能力	0.46**	-0.14	0.33**	0.47**	0.24*	0.29*	0.55**	0.13	0.09	0.22	0.30*	0.19	0.15
	16.課題発見力		7_2_16. 現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定する能力	0.50**	-0.20	0.30*	0.46**	0.27*	0.33**	0.52**	0.11	0.12	0.22	0.26*	0.17	0.14
	17.構想力		7_2_17. さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、具体化する能力	0.46**	-0.20	0.37**	0.42**	0.24*	0.20	0.51**	0.09	0.05	0.20	0.28*	0.19	0.19

【6-1. 授業中に自分から発言した】【6-3.授業の内容について他の学生と議論した】【6-7. 在学中を通じて自分は成長できたと実感できる】については、全ての能力の修得度との間で、正の相関関係が認められた。

⇒ **主体性を発揮し、成長実感を得ている人ほど、多くの能力の修得の実感も高い傾向がある。**

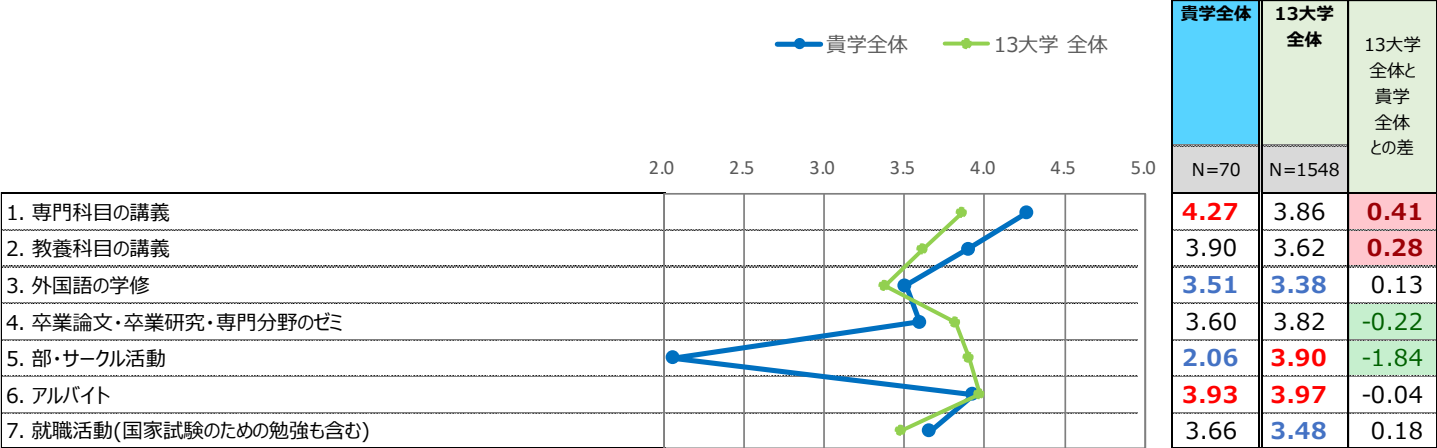
【16-4.これからのキャリアや人生を自分で切り開いていける】と感じている人ほど、リテラシーの修得度と、正の相関関係が認められた。

4. 他大学との比較

■ 大学時代の学修・学生生活の満足度

13 大学との差では特に「1.専門科目の講義」と「2.教養科目の講義」は高くなっているが、「4.卒業論文・卒業研究・専門分野のゼミ」「5.部・サークル活動」が低くなっている。（4.5 はやっていない学生が多いことも要因と考えられる）

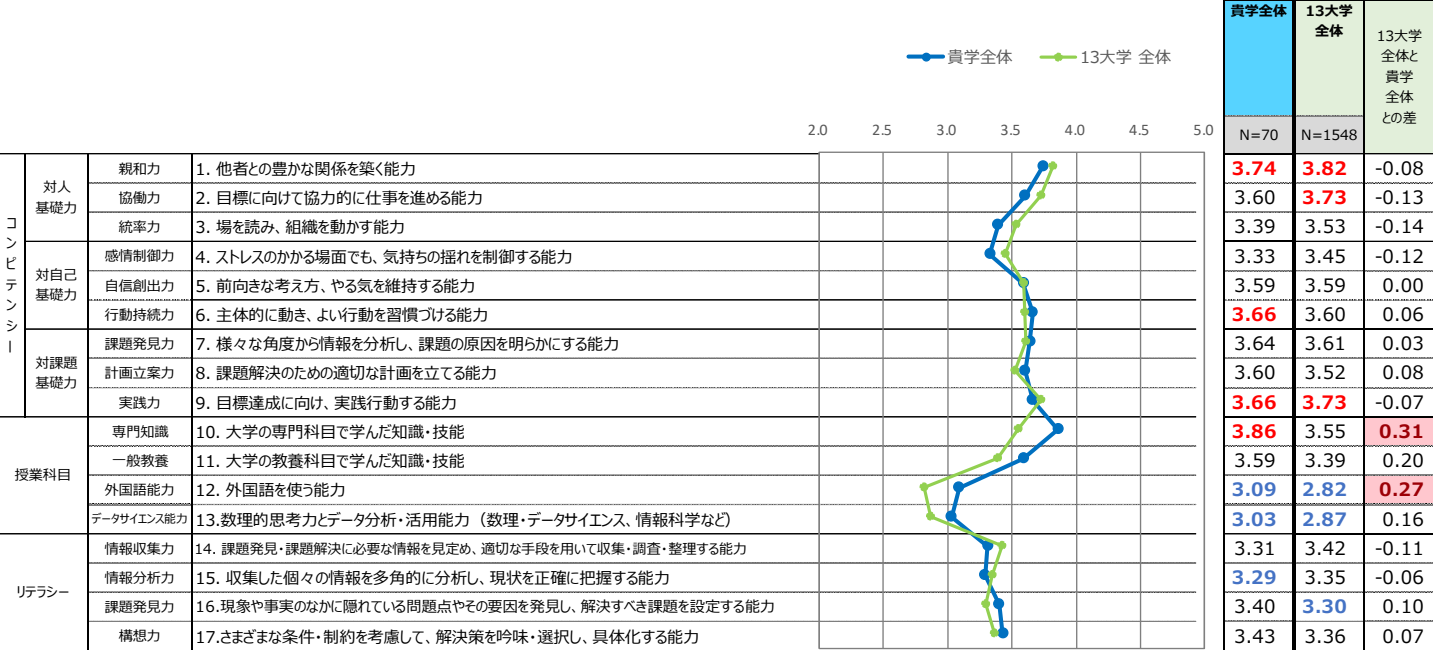
大学時代の学修・学生生活の満足度（Q5-2）



■ 大学で身についた力

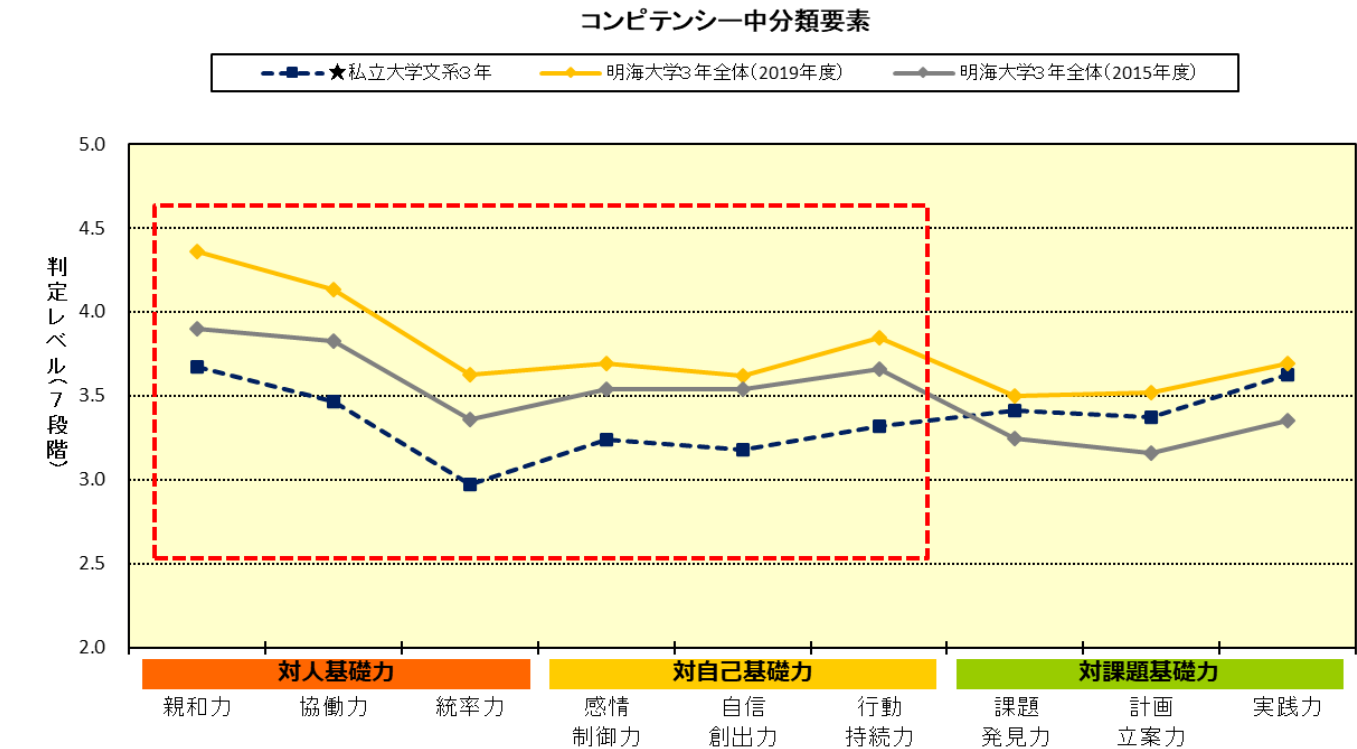
13 大学との差で本学の特徴をみると、特に「10.専門知識」と「12.外国語能力」が高くなっている。

■ 修得度(Q7-2)



5. 参考

■ 卒業生調査実施年度の当時の 3 年次 PROG スコア

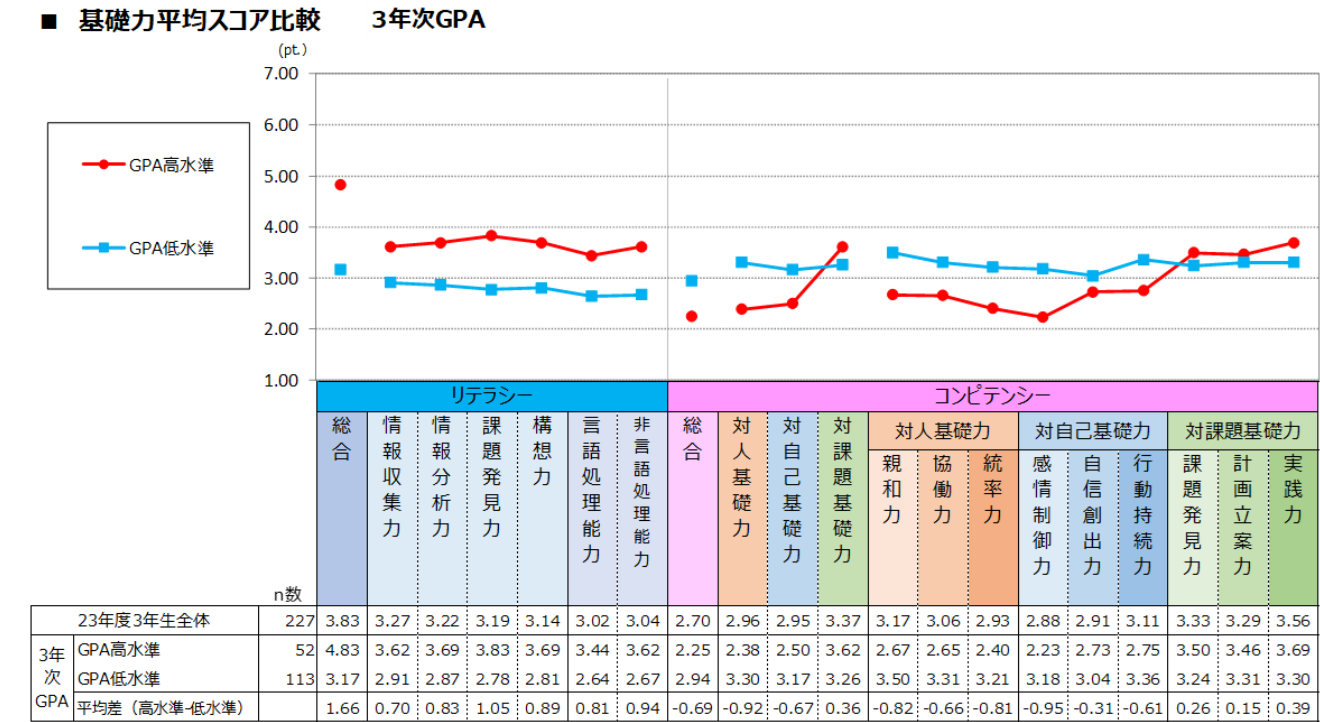


2019 年度 3 年生 : N=297 名、2015 年度 3 年生 : N=566 名、※2017 年度は未実施

卒業生調査でも身に付いたと実感している度合いが高い「親和力」、そこまで高くない「統率力」や「感情制御力」など、在学中に受検している PROG のスコアと近い傾向も見受けられる。

■ 3 年時の GPA と基礎力の関係（他大学のデータ）

3 年時の GPA が高水準（専門科目にもしっかり取り組んでいる）層の方が、リテラシーの水準、対課題基礎力は高い傾向。



（コンピテンシーは個々の環境や自分に厳しいと低くなってしまうといった要素もある。本学の PROG データでも見受けられる。）

■ まとめ

・企業が重視している項目は親和力・協働力（対人基礎力）、自信創出力・行動持続力（対自己基礎力）、実践力（対課題基礎力）などのコンピテンシー。続いてリテラシー。専門知識などの授業の科目はそこまで重視していない。

また、本学の実践を意識した教育の効果もあり、企業が求める能力を学生も概ね身につけていると思われる。

・専門科目は重視されていないように見えるが、しっかり取り組んだ（GPA の高い）学生ほどリテラシーは高くなっており、専門分野の学修に取り組むことが様々なスキルに影響していると考えられる。

・専門科目への熱心な取組、主体性の発揮、教員と親しい関係を築く、成長実感が高い卒業生は能力の修得と相関がみられる。

・在学中からの特徴が卒業後にも確認できる項目がある。（強み：親和力、課題：統率力）

特に「親和力」（対人基礎力）が本学の卒業生の強みといえる。

在学中の PROG の結果においても高い傾向がみられるため、ここを伸ばしていく取り組みができているとも考えられる。

今後は、

・実践教育を中心に学生の強みを伸ばすとともに、授業においても、これまで以上に多くの学生が発言、説明できる環境を整えるなど、主体性を育む工夫を重ねていきたい。それによりリテラシーのみならずコンピテンシーの向上にもつなげていく。

・卒業生の回収率には課題があるため、卒業生への謝礼の提供など施策も検討する。

・他のアンケートや PROG のデータと合わせた分析を試みたい。